『マツヤ・プラーナ』第183章：和訳と註解

—『マツヤ・プラーナ』所収の「ヴァーラーナスィー・マーハートミヤ」について」(2) —

宮　本　久　義

1. はじめに

本稿は昨年『東洋大学文学部紀要第59集インド哲学科篇 XXXI』に和訳と註釈を試みた『マツヤ・プラーナ』第180～182章の続きで、第183章を訳出したものである。『マツヤ・プラーナ』第180～185章は「ヴァーラーナスィー・マーハートミヤ」と呼ばれ、北インドのヒンドゥー教聖地ヴァーラーナスィー（別名カーシー、バナーラス、ベナレス）の巡礼案内書的性格を持ったものである。この聖地は多くの別名を持つが、その1つに「アヴィムクタ」(avimukta) がある。動詞語根 a-vi-√muc（離れない、捨てない）の過去分詞で、「離れられない、捨てられない」を意味する。第183章では、シヴァ神がこの聖地に特別の愛着を持ち、どうして「離れられない（場所）」となったのかの理由を、神妃パールヴァティーが尋ね、それに対してシヴァ神が答える形式になっている。

テクストには、*Matsyapurāṇa*. Ananda Ashrama Sanskrit Series 54, Poona, 1981. を用いた。また、*The Matsyapurāṇam*. H. H. Willson (forworded), 2 vols., Delhi: Nag Publishers, 1983. に付された英訳はかなり杜撰なものではあるが、参考になった点も多い。

2.『マツヤ・プラーナ』第183章和訳

devy uvāca /
himavantaṃ giriṃ tyaktvā mandaraṃ gandhamādanam /

kailāsaṃ niṣadhaṃ caiva merupṛṣṭhaṃ mahādyuti // 1 //
ramyaṃ triśikharaṃ caiva mānasaṃ sumahāgirim /
devodyānāni ramyāṇi nandanaṃ vanam eva ca // 2 //
surasthānāni mukhyāni tīrthāny āyatanāni ca /
tāni sarvāṇi saṃtyajya avimukte ratiḥ katham // 3 //
女神（パールヴァティー）が言った。
ヒマーラヤ山、マンダラ山、ガンダマーダナ山、
カイラーサ山、そしてニシャダ山、壮麗なメールの山頂、
さらに心地よいトリシカラ山、マーナサ湖、美しいマハーギリ山、
また神々の庭である心地よいナンダナヴァという、
あらゆる神々しい主要な聖地や神域よりも、
あなたがアヴィムクタに愛着を抱いている理由は何でしょうか。

kim atra sumahatpuṇyaṃ paraṃ guhyaṃ vadasva me /
yena tvaṃ ramase nityaṃ bhūtasaṃpadguṇair yutaḥ // 4 //
あなたが眷属や幸運や徳とともに、常に心地よく過ごす、
たいへん善に満ちたここ (この聖地) の最高の秘密は何か、私にお聞かせ下さい。

kṣetrasya pravaratvaṃ ca ye ca tatra nivāsinaḥ /
teṣām anugrahaḥ kaścit tat sarvaṃ brūhi śaṃkara // 5 //
聖地の最も優れた点は何か、そこに住む人々についても、
さらに、彼らにどんな恩恵があるのか、それらをすべてお話し下さい、シャンカラよ。
　註）シャンカラ：恩恵を与える者の意で、シヴァ神の別名。

śaṃkara uvāca /
atyadbhutam imaṃ praśnaṃ yat tvaṃ pṛcchasi bhāmini /
tat sarvaṃ saṃpravakṣyāmi tan me nigadataḥ śṛṇu // 6 //
シャンカラ（シヴァ神）が言った。
たいへん興味深いことを、汝は尋ねた、情熱的な人よ。
そのすべてを私は語ろう。私が話すのを聞きなさい。

vārāṇasyāṃ nadī puṇyā siddhagandharvasevitā /
praviṣṭā tripathā gaṅgā tasmin kṣetre mama priye // 7 //
ヴァーラーナスィーには成就者やガンダルヴァ神（半神）がかしづく聖なる川がある。
その聖域に三界を流れるガンガー（ガンジス川）が流れ込んでいる、私の愛しき人よ。

註）三界を流れるガンガー：神話によれば、もとは天界を流れる川であったガンガーは、バギーラタ仙の願いにより、地上に降り、その後地下の世界に流れ込む。（菅沼、p.122ff.；宮本、2003、pp.76-77.）

mamaiva prītir atulā kṛttivāse ca sundari /
sarveṣāṃ caiva sthānānāṃ sthānaṃ tat tu yathā 'dhikam // 8 //
私のクリッティヴァーサに対する愛情は無比である、美しき人よ。
［この聖地は］あらゆる聖地の中の最も優れた聖地である。

註）クリッティヴァーサ：シヴァ神の別名で「象の皮をまとった者」の意。シヴァ神が象の姿をした悪魔を退治し、皮を剥いで身にまとったという神話にもとづく。同名の寺院がヴァーラーナスィー北部にあり、16 世紀まで多くの参詣者で賑わったが、ムガル王朝第 6 代皇帝アウラングゼーブの軍隊によって破壊された。(Eck, p.83,84,119,144 参照) ここではアヴィムクタ（ヴァーラーナスィー）と同義で使われている。

tena kāryeṇa suśroṇi tasmin sthāne ratir mama /
tasmiṃl liṅge ca sāṃnidhyaṃ mama devi sureśvari // 9 //
それ故、美しき腰を持つ人よ、私にはこの聖地が愛しく、
そしてそこのリンガに内在しているのだ、神々の主（シヴァ神）の妃よ。

kṣetrasya ca pravakṣyāmi guṇān guṇavatāṃ vare /
yāñ chrutvā sarvapāpebhyo mucyate nātra saṃśayaḥ // 10 //
私は聖地の徳を語ろう、すぐれた徳を持つ人よ、
それを聞けばあらゆる罪から解放されることは疑いない。

yadi pāpo yadi śaṭho yadi vā'dhārmiko naraḥ /
mucyate sarvapāpebhyo hy avimuktaṃ vrajed yadi // 11 //
罪人であれ、悪人であれ、非法の者であれ、
もしアヴィムクタに入ったなら、あらゆる罪から解放される。

pralaye sarvabhūtānāṃ loke sthāvarajaṅgame /
na hi tyajāmi tat sthānaṃ mahāgaṇaśatair vṛtaḥ // 12 //
この世のすべての不動のもの・動くもの、植物や動物も、全ての生類が還滅する時においても、
何百もの従者とともに、私はこの聖地を絶対に捨てないであろう。

註）還滅 (pralaya)：ヒンドゥー教の周期的宇宙観では、ブラフマー神の1日（昼間）、すなわち1劫（kalpa、カルパ＝人間にとっての43億2000万年）が終わると、宇宙はブラフマー神に帰入する。これを還滅という。その後、ブラフマー神の夜が同じ時間経過したあと、宇宙は再び創造される。

yatra devāḥ sagandharvāḥ sayakṣoragarākṣasāḥ /
vaktraṃ mama mahābhāge praviśanti yugakṣaye // 13 //
そこでは、神々はガンダルヴァ・ヤクシャ（夜叉）・蛇・ラークシャサ（羅刹）たちを伴って、
世界還滅時において、幸運を持つ人よ、私の口に入る（救われる）。

teṣāṃ sākṣād ahaṃ pūjāṃ pratigṛhṇāmi pārvati /
sarvaguhyottamaṃ sthānaṃ mama priyatamaṃ śubham // 14 //
私は彼らの礼拝をそのまま受け入れる、パールヴァティーよ。
最上の秘密である聖地は私にとって最も愛しくすばらしい所である。

dhanyāḥ praviṣṭāḥ suśroṇi mama bhaktā dvijātayaḥ /
madbhaktiparamā nityaṃ ye madbhaktās tu te narāḥ // 15 //
tasmin prāṇān parityajya gacchanti paramāṇ gatim /
美しき腰を持つ人よ、常に私に最高の信を置く再生族の帰依者たちで、
［この聖地に］入った者たちは幸せである。

そこで生命を捨てれば（最後の息を引きとれば）最高の境地に至る。

sadā yajati rudreṇa sadā dānaṃ prayacchati // 16 //
sadā tapasvī bhavati avimuktasthito naraḥ /
yo māṃ pūjayate nityaṃ tasya tuṣyām ahaṃ priye // 17 //
常にルドラ（シヴァ神）［の真言］で祀り、常に布施を捧げ、
常に苦行をなし、アヴィムクタに住み、
常に私を礼拝する者を、私は喜ばせる、愛しき人よ。

sarvadānāni yo dadyāt sarvayajñeṣu dīkṣitaḥ /
sarvatīrthābhiṣiktaś ca sa pradyeta mām iha // 18 //
あらゆる財を与え、あらゆる供犠を執り行い、
あらゆる聖地で沐浴する者は、ここで私を輝かせる。

avimuktaṃ sadā devī ye vrajanti suniścitāḥ /
te tiṣṭhantīha suśroṇi madbhaktāś ca triviṣṭape // 19 //
matprasādāt tu te devi dīpyante śubhalocane /
durdharāś caiva durdharṣā bhavanti vigatajvarāḥ // 20 //
女神よ、堅固な心でアヴィムクタに到着し、
美しき腰を持つ人よ、三界のなかでここに住む私の帰依者たちは、
私の恩恵により輝く、美しき眼を持つ女神よ。
悪人や危険な者でも、［心の］炎をしずめる（罪を滅する）。

avimuktaṃ śubhaṃ prāpya madbhaktāḥ kṛtaniścayāḥ /
nirdhūtapāpā vimalā bhavanti vigatajvarāḥ // 21 //
私の堅固な心を持つ帰依者たちは吉祥なるアヴィムクタに至って、
罪を滅ぼし、無垢になり、心の炎をしずめる。

pārvaty uvāca /
dakṣayajñas tvayā deva matpriyārthe niṣūditaḥ /
avimuktaguṇānāṃ tu na tṛptir iha jāyate // 22 //
パールヴァティーが言った。

神よ、私を愛するがためにダクシャ神の供犠祭があなたによって破壊されました。
[そのくらい私に対する愛情があるのに、]
しかしアヴィムクタの美徳の解説にはまだ満足しておりません。

註）ダクシャ：ブラフマー神の息子で、シヴァ神妃であったサティーの父。プラーナ聖典の神話によれば、ダクシャが主宰した供犠祭にシヴァ神が招かれなかったので、サティーは嘆いて火のなかに身を投げて死んでしまった。シヴァ神は怒ってその場に行き、祭場を破壊してしまったという。パールヴァティーはサティーの生まれ変わりとされる。（菅沼、p.200 参照）

īśvara uvāca /
krodhena dakṣayajñas tu tvatpriyārthe vināśitaḥ /
mahāpriye mahābhāge nāśito 'yaṃ varānane // 23 //
神が言った。
汝が愛しいために怒ってダクシャの供犠祭を破壊した。
大いに愛しい幸運な人よ、美しき顔を持つ人よ、それは破壊されたのだ。

avimukte yajante tu madbhaktāḥ kṛtaniścayāḥ /
na teṣāṃ punar āvṛttiḥ kalpakoṭiśātair api // 24 //
しかるに、アヴィムクタでは私を祀る堅固な心を持つ帰依者たちは、
[天界に行き] 何百万劫経っても現世に戻ることはない。

devy uvāca /
durlabhās tu guṇā deva avimukte tu kīrtitāḥ /
sarvāṃs tān mama tattvena kathayasva maheśvara //25 //
女神が言った。
神よ、アヴィムクタにおける得がたい徳が説かれましたが、
それらすべてを詳細にお話し下さい、偉大な主よ。

kautūhalaṃ mahādeva hṛdisthaṃ mama vartate /
tat sarvaṃ mama tattvena ākhyāhi parameśvara // 26 //

偉大なる神よ、私の心は好奇心に満ちております。
そのすべてを詳細にお語り下さい、最高の主よ。

īśvara uvāca /
akṣayā hy amarāś caiva hy adehāś ca bhavanti te /
matprasādād varārohe mām eva praviśanti vai // 27 //
主が言った。
アヴィムクタに住む者は不壊、不死となり、身体を捨て、
私の恩恵により、まさに私に入る、美しき人よ。

brūhi brūhi viśālākṣi kim anyac chrotum arhasi // 28 //
大きな眼を持つ人よ、言いなさい。他に何が聞きたいかを。

devy uvāca /
avimukte mahākṣetre aho puṇyam aho guṇāḥ /
na tṛptim adhigacchāmi brūhi deva punar guṇān // 29 //
女神が言った。
偉大な聖地アヴィムクタには何とすばらしい善と徳があるのでしょう。
私は［まだ］満足できません。もっと徳をお話下さい、神よ。

īśvara uvāca /
maheśvari varārohe śṛṇu tāṃs tu mama priye /
avimukte guṇā ye tu tathā 'nyān api tac chṛṇu // 30 //
主が言った。
偉大な主の妃よ、美しき人よ、私の愛しき人よ、お聞きなさい。
アヴィムクタにおける徳とその他のこともお聞きなさい。

śākaparṇāśino dāntāḥ saṃprakṣālyā marīcipāḥ /
dantolūkhalinaś cānye aśmakuṭṭās tathā pare // 31 //
māsi māsi kuśāgreṇa jalam āsvādayanti vai /
vṛkṣamūlaniketāś ca śilāśayyās tathā pare // 32 //
ādityavapuṣaḥ sarve jitakrodhā jitendriyāḥ /

evaṃ bahuvidhair dharmair anyatra caritavratāḥ // 33 //
野菜［のみ］を食べ、感官を制御し、身を浄め、太陽に焼かれ、
また、地下の食物を食す修行者、あるいは石でつき砕く者、
またある者は、来る月も来る月も、クシャ草の先端から水をすすり、
木の根元に住み、岩のうえに寝る。
すべての人は太陽のごとき輝きを持ち、怒りを制し、感官を制御している。
このように、他の場所にはさまざまの法（正しき行い）で戒を守る人々がいる。

註）dantolūkhalin：元の意味は歯を臼として使う者、地下にあるものを食す修行者のこと。
(M. Monier-Williams, *A Sanskrit-English Dictionary,* p.469.)

trikālam api bhuñjānā ye 'vimuktanivāsinaḥ /
tapaś caranti vā 'nyatra kalāṃ nārhanti ṣoḍaśīm /
ye 'vimukte vasantīha svarge prativasanti te // 34 //
［しかし］アヴィムクタに住む者たちは三時（朝・昼・晩）を楽しんでいる。
他の場所で苦行を修する者は、その 16 分の 1 にも値しない。
アヴィムクタに住む人々は、天界に住んでいる［に等しい］。

matsamaḥ puruṣo nāsti tvatsamā nāsti yoṣitām /
avimuktasamaṃ kṣetraṃ na bhūtaṃ na bhaviṣyati // 35 //
私に等しい男性はおらず、女性のなかには汝に等しい者はいない。
[同様に、] アヴィムクタに等しい聖地はなく、これからもないであろう。

avimukte paro yogo hy avimukte parā gatiḥ /
avimukte paro mokṣaḥ kṣetraṃ naivāsti tādṛśam // 36 //
アヴィムクタには最高のヨーガがあり、アヴィムクタには最高の境地（到達点）がある。
アヴィムクタには最高の解脱がある。このような聖地は［他に］ない。

paraṃ guhyaṃ pravakṣyāmi tattvena varavarṇini /
avimukte mahākṣetre yad uktaṃ hi mayā purā // 37 //
偉大な聖地アヴィムクタについて、私が以前語った
最高の秘密を、美しき人よ、詳細に話そう。

janmāntaraśatair devi yogo 'yaṃ yadi labhyate /
mokṣaḥ śatasahasreṇa janmanā labhyate na vā // 38 //
avimukte na saṃdeho madbhaktaḥ kṛtaniścayaḥ /
ekena janmanā so 'pi yogaṃ mokṣaṃ ca vindati // 39 //
女神よ、百回生まれかわってこのヨーガが得られるにしても、
十万回生まれかわって解脱が得られるにしても、
アヴィムクタでは、私の篤信の帰依者は、
１回の生まれで、ヨーガも解脱も得られることは疑いない。

avimuktaṃ narā devi ye vrajanti suniścitāḥ /
te viśanti paraṃ sthānaṃ mokṣaṃ paramadurlabham // 40 //
女神よ、アヴィムクタにやって来る私の篤信の者たちは、
最高の聖地、もっとも得がたい解脱に入る。

pṛthivyām īdṛśaṃ kṣetraṃ na bhūtaṃ na bhaviṣyati /
caturmūrtiḥ sadā dharmas tasmin saṃnihitaḥ priye //
caturṇām api varṇānāṃ gatis tu paramā smṛtā // 41 //
地上にこのような聖地はなく、これからもないであろう。
愛しき人よ、そこには４種の法（ダルマ）があり、
４種のヴァルナ（カースト）の人々にとって、最高の境地があるといわれる。

devy uvāca /
śrutā guṇās te kṣetrasya iha cānyatra ye prabho /
vadasva bhuvi viprendrāḥ kaṃ vā yajñair yajanti te // 42 //
女神が言った。
主よ、聖地のこの世と来世での徳をお聞きしました。

地上でブラーフマナ（バラモン）が供犠によって何を祀るのか、お話し下さい。

īśvara uvāca /
ijyayā caiva mantreṇa mām eva hi yajanti ye /
na teṣāṃ bhayam astīti bhavaṃ rudraṃ yajanti yat // 43 //
主が言った。
彼らは供犠によって、また真言によって、まさに私を祀るのである。
ルッドラ（シヴァの別名）神を祀る者たちには、恐れは存在しない。

amantro mantrako devi dvividho vidhir ucyate /
sāṃkhyaṃ caivātha yogaś ca dvividho yoga ucyate // 44 //
女神よ、儀式には真言を伴わないものと伴うものとの2種があるといわれる。
ヨーガにはサーンキヤとヨーガとの2種があるといわれる。
註）この部分は明らかに『バガヴァッド・ギーター』の影響が見られる。サーンキヤとヨーガは古代インドの六派哲学のうちの2学派の名称であるが、ここでは『バガヴァッド・ギーター』で用いられるように、サーンキヤは「知識のヨーガ」、ヨーガは「行為のヨーガ」を指す。（上村、p147,n.39 参照）

sarvabhūtasthitaṃ yo māṃ bhajaty ekatvam āsthitaḥ /
sarvathā vartamāno 'pi sa yogī mayi vartate // 45 //
一なるものに専心し、私をすべての生類に宿るものとして礼拝するヨーギンは、あらゆるところにありながら、私の中に存在する。
註）ヨーギン：直訳すればヨーガ行者であるが、この言葉は必ずしも肉体的なヨーガの修行をする者に限定されず、一般的に修行者の意味で使用される。

ātmaupamyena sarvatra sarvaṃ ca mayi paśyati /
tasyāhaṃ na praṇaśyāmi sa ca me na praṇaśyati // 46 //
自分に引き比べて、あらゆるところにあるあらゆるものを私の中にある

と考える者を、
私は破滅させないし、彼もまた私を破滅させない。

nirguṇaḥ saguṇo vā 'pi yogaś ca kathito bhuvi /
suguṇaś caiva vijñeyo nirguṇo manasaḥ paraḥ // 47 //
etat te kathitaṃ devi yan māṃ tvaṃ paripṛcchasi // 48 //
この世には、有属性と無属性のヨーガがあるといわれる。
有属性のものは認識できるが、無属性のものは心（マナス、意）の外にある（心で捉えられない）。
汝が私に尋ねたことは、女神よ、汝に語られた。

devy uvāca /
yā bhaktis trividhā proktā bhaktānāṃ bahudhā tvayā /
tām ahaṃ śrotum icchāmi tattvataḥ kathayasva me // 49 //
女神が言った。
あなたは信愛（バクティ）には3種あり、帰依者（バクタ）は多種であると説かれました。
私はそれらをお聞きしたいと願っております。私に詳細にお話し下さい。

īśvara uvāca /
śṛṇu pārvati deveśi bhaktānāṃ bhaktivatsale /
prāpya sāṃkhyaṃ ca yogaṃ ca duḥkhāntaṃ ca niyacchati // 50 //
主が言った。
神々の主の妃パールヴァティーよ、お聞きなさい。帰依者を信愛する人よ。
サーンキヤとヨーガとに到達すれば、苦の消滅を得る。

sadā yaḥ sevate bhikṣāṃ tato bhavati rañjitaḥ /
rañjanāt tanmayo bhūtvā līyate sa tu bhaktimān // 51 //
常に乞食を行っている者は、［私によって］喜ばされる。
喜びによって［私に］同化し、信愛を持つ者として［私に］没入する。

śāstrāṇāṃ tu varārohe bahukāraṇadarśinaḥ /
na māṃ paśyanti te devi jñānavākyavivādinaḥ // 52 //
美しき人よ、教典には多くの教義があると考える、
知とことばを分けて捉える者たちは、女神よ、私を見る（理解する）ことはできない。

paramārthajñānatṛptāṃ yuktā jānanti yoginaḥ /
vidyayā viditātmāno yogasya ca dvijātayaḥ // 53 //
ヨーガの知によって自身を知るブラーフマナのヨーギンは、
最高の真理と知の満足を知る。

pratyāhāreṇa śuddhātmā nānyathā cintayec ca tat /
tuṣṭiṃ ca paramāṃ prāpya yogaṃ mokṣaṃ paraṃ tathā /
tribhir guṇaiḥ samāyukto jñānavān paśyatīha mām // 54 //
プラティヤーハーラによって心を浄化した者は、他のことを考えるべきではない。
最高の満足および最高のヨーガと解脱に到達し、
3 種のグナを具えた知者は、この世で私を見る。

註）プラティヤーハーラ：ヨーガの 8 階梯の修行法の第 5 番目にあたる。諸感覚器官の働きを制御し、対象と結び付かなくすることで、その時、感覚器官は外部からの刺激があっても反応を示さず、心の働きと同調するようになる。
グナ：属性、性質、物質の構成要素。インド思想では、あらゆる物質的存在は 3 つのグナ、すなわち、サットヴァ（純質）・ラジャス（激質）・タマス（暗質）からなるという考えが一般的である。

etat te kathitaṃ devi kim anyac chrotum arhasi /
bhūya eva varārohe kathayiṣyāmi suvrate // 55 //
女神よ、以上のように［尋ねられたことについて］汝に語ったが、何か他に聞きたいことがあれば、
美しき人よ、さらに私は語ろう、よく戒を守る人よ。

guhyaṃ pavitram athavā yac cāpi hṛdi vartate /
tat sarvaṃ kathayiṣyāmi śṛṇuṣvaikamanāḥ priye // 56 //
秘密で神聖なることや何でも心の中にあることを、
そのすべてを語ろう、心を専一にしてお聞きなさい、愛しき人よ。

devy uvāca /
tvadrūpaṃ kīdṛśaṃ deva yuktāḥ paśyanti yoginaḥ /
etaṃ me saṃśayaṃ brūhi namas te surasattama // 57 //
女神が言った。
神よ、あなたのどのようなお姿を、専心したヨーギンは見るのでしょうか。
この私の疑問について、最高の神よ、礼拝します、どうぞお答え下さい。

śrībhagavān uvāca /
amūrtaṃ caiva mūrtaṃ ca jyotirūpaṃ hi tat smṛtam /
tasyopalabdhim anvicchan yatnaḥ kāryo vijānatā // 58 //
聖なる神が言った。
無形のものと、有形のもの、それはまさに輝く姿であるが、とがあると知りなさい。
それ（有形の姿）を得るためには、知者は努力しなければならない。

guṇair viyukto bhūtātmā evaṃ vaktuṃ na śakyate /
śakyate yadi vaktuṃ vai divyair varṣaśatair na vā // 59 //
グナを持たない本質は、このようであると話すことはできない。
もし話せるとしても、神々にとっての百年がかかるであろう。
註）神々にとっての：神々にとっての 1 年は人間にとっての 360 年に相当する。

devy uvāca /
kiṃ pramāṇaṃ tu tat kṣetraṃ samantāt sarvato diśam /
yatra nityaṃ sthito devo mahādevo gaṇair yutaḥ // 60 //
女神が言った。

グナを具えた（有形の）偉大な神が常に住む、
その聖地のすべての方角に広がる全体の大きさはどのくらいですか。

īśvara uvāca /
dviyojanaṃ tu tat kṣetraṃ pūrvapaścimataḥ smṛtam /
ardhayojanavistīrṇaṃ tat kṣetraṃ dakṣiṇottaram // 61 //
主が言った。
その聖地は東西２ヨージャナであるといわれる。
その聖地は南北半ヨージャナに広がっている。
註）ヨージャナ：距離の単位で、約４マイル、約５マイル、約９マイルなど、テクストによって長さは異なる。

varaṇā 'sī nadī yāvat tāvac chuklanadī tu vai /
bhīṣmacaṇḍikam ārabhya parvateśvaram antike // 62 //
gaṇā yatrāvatiṣṭhante saṃniyuktā vināyakāḥ /
kūṣmāṇḍagajatuṇḍaś ca jayantaś ca madotkaṭāḥ // 63 //
ヴァラナー川とアスィー川と、そのあいだに浄らかな川（ガンガー、ガンジス川）があり、
ビーシュマチャンディカにはじまり、パルヴァテーシュヴァラに終わる［聖域］に、
クーシュマーンダ、ガジャトゥンダ、ジャヤンタ、マダと呼ばれる、
ヴィナーヤカ（障碍を除去する者）として任命された［私の］眷属が住む。
註）ヴァラナー川とアスィー川：それぞれこの聖地の北部と南部を流れる川で、現在はワルナー川、アッスィー川と呼ばれる。
ビーシュマチャンディカ：聖地の西部にある寺院で、現在のビームチャンディー。
パルヴァテーシュヴァラ：聖地の東部、ガンガー沿いにある寺院。ガンガーはこの聖地の東限を画す。

siṃhavyāghramukhāḥ kecid vikaṭāḥ kubjavāmanāḥ /
yatra nandī mahākālaś caṇḍaghaṇṭo maheśvraḥ // 64 //
daṇḍacaṇḍeśvaraś caiva ghaṇṭākarṇo mahābalaḥ /

ete cānye ca bahavo gaṇāś caiva gaṇeśvarāḥ // 65 //
ある者たちは獅子や虎の顔を持ち、恐ろしい形相の者や背の曲がった者、小人である。
ナンディー、マハーカーラ、チャンダガンタ、マヘーシュヴァラ、
ダンダチャンデーシュヴァラ、力持ちのガンターカルナ、
これらの者やさらに他にも、多くのガネーシュヴァラ（群集の主）の眷属がいる。

mahodarā mahākāyā vajraśaktidharās tathā /
rakṣanti satataṃ devi hy avimuktaṃ tapovanam //
dvāre dvāre ca tiṣṭhanti śūlamudgarapāṇayaḥ // 66 //
大きな腹を持つ者、大きな体の者、また金剛杵の力を持つ者が、
女神よ、アヴィムクタの苦行林をいつも護っている。
戟や斧を持った者たちも門ごとに立っている。

suvarṇaśṛṅgīṃ raupyakhurāṃ cailājinapayasvinīm /
vārāṇasyāṃ tu yo dadyāt savatsāṃ kāṃsya bhājanām // 67 //
gāṃ dattvā tu varārohe brāhmaṇe vedapārage /
āsaptamaṃ kulaṃ tena tāritaṃ nātra saṃśayaḥ // 68 //
角に金を結び、蹄に銀を付け、皮に衣装を付けた、たくさんの乳を出す牛を、
仔牛と銅の食器とともに、ヴァーラーナスィーで、
美しき人よ、ヴェーダに通暁したブラーフマナに与えるならば、
それによって、7代までの先祖を救うことは疑いない。

yo dadyād brāhmaṇe kiṃcit tasmin kṣetre varānane /
kanakaṃ rajataṃ vastram annādyaṃ bahuvistaram //
akṣayaṃ cāvyayaṃ caiva syātāṃ tasya sulocane // 69 //
美しき顔を持つ人よ、その聖地で、金や銀や布や穀物などを、
少しでも、ブラーフマナに与える者には、
永遠不滅のものが得られるであろう、美しき眼をした人よ。

śṛṇu tattvena tīrthasya vibhūtiṃ vyuṣṭim eva ca /
tatra snātvā mahābhāge bhavanti nīrujā narāḥ // 70 //
聖地の神威と果報とを詳細にお聞きなさい。
そこで沐浴すれば、大きな幸運を持つ人よ、人々は無病になる。

daśānām aśvamedhānāṃ prāpnoti mānavaḥ /
tad avāpnoti dharmātmā tatra snātvā varānane // 71 //
人が 10 回のアシュヴァメーダ祭で得る［善］を、
正しき行為をする者はここで沐浴してそれを得る、美しき顔を持つ人よ。
註）アシュヴァメーダ祭：国家の繁栄を祈願して、1 年間、馬（アシュヴァ）を放ったあと、犠牲祭（メーダ）を行う古代インドで最大の祭祀のひとつ。馬祀祭と訳されることが多い。

bahusvalpe ca yo dadyād brāhmaṇe vedapārage /
śubhāṃ gatim avāpnoti agnivac caiva dīpyate // 72 //
ヴェーダに通暁したブラーフマナに、ほんの少しでも与えるならば、
吉祥なる境地を得、灯火のごとく輝く。

vārāṇasījāhnavībhyāṃ saṃgame lokaviśrute /
dattvā 'nnaṃ ca vidhānena na sa bhūyo 'bhijāyate // 73 //
etat te kathitaṃ devi tīrthasya phalam uttamaṃ // 74 //
ヴァーラーナスィーとガンガー川の人々によく知られた合流点で、
規則に従って穀物を与えるならば、その者は再び生まれない。
女神よ、以上のように聖地の最上の果報について汝に語った。
註）ヴァーラーナスィーとガンガー川の合流点：聖地の北部を西から東に流れるヴァラナー川がガンガーに合流する場所と、南部を西から東に流れるアスィ川がガンガーに合流する場所、と解釈できる。

punar anyat pravakṣyāmi tīrthasya phalam uttamam /
upavāsaṃ tu yaḥ kṛtvā viprān saṃtarpayen naraḥ //
sautrāmaṇeś ca yajñasya phalaṃ prāpnoti mānavaḥ // 75 //

さらに聖地の他の最上の果報について語ろう。
人は断食をしてから、ブラーフマナに食事を供するべきである。
［そうすれば］サウトラーマニー祭の果報と等しい果報を得る。
　註）サウトラーマニー：インドラ神に対する供犠。

ekāhāras tu yas tiṣṭhen māsaṃ tatra varānane /
yāvaj jīvakṛtaṃ pāpaṃ sahasā tasya naśyati // 76 //
１日１回の食事で１か月間暮らす者には、美しき顔を持つ人よ、
生涯のあいだでなした罪が即座に消滅する。

agnipraveśaṃ ye kuryur avimukte vidhānataḥ /
praviśanti mukhaṃ te me niḥsaṃdigdhaṃ varānane // 77 //
アヴィムクタで規則に従って火に入るならば、
私の口の中に燃えずに入る、美しき顔を持つ人よ

kurvanty anaśanaṃ ye tu madbhaktāḥ kṛtaniścayāḥ /
na teṣāṃ punar āvṛttiḥ kalpakoṭiśatair api // 78 //
私の篤信の帰依者たちで断食をする者たちは、
何十億劫経っても再び生まれ変わってこない。

arcayed yas tu māṃ devi avimukte tapovane /
tasya dharmaṃ pravakṣyāmi yad avāpnoti mānavaḥ // 79 //
daśāśvamedhikaṃ puṇyaṃ labhate nātra saṃśayaḥ // 80
daśasauvarṇikaṃ puṣpaṃ yo 'vimukte prayacchati /
agnihotraphalaṃ dhūpe gandhadāne tathā śṛṇu //
bhūmidānena tat tulyaṃ gandhadānaphalaṃ smṛtaṃ // 81 //
saṃmārjane pañcaśataṃ sahasram anulepane /
mālayā śatasāhasram anantaṃ gītavādyataḥ // 82 //
苦行林であるアヴィムクタで私を崇拝する者が、女神よ、
得られるダルマ（善業、徳）を語ろう。
10 回のダシャーシュヴァメーダ祭［に等しい］徳が得られることは疑いない。

アヴィムクタで10の金貨［に等しい］花を与える者は、アグニホートラ［に等しい］果報を得る。
同様に、芳しい香煙について、お聞きなさい、
香煙の布施の果報は土地寄進［の果報］に等しいといわれる。
清拭では500、塗油では1000の、
花輪では10万の、讃歌朗誦では無限の［果報を得る］。
　註）アグニホートラ：アグニ神に対する供犠。

devy uvāca /
atyadbhutam idaṃ deva sthānam etat prakīrtitam /
rahasyaṃ śrotum icchāmi yad arthaṃ tvaṃ na muñcasi // 83 //
このたいへん驚くべき聖地についてお話ししていただきました。
あなたがなぜ［この聖地を］離れないのかという秘密をお聞きしたいと思います。

īśvara uvāca /
āsīt purvaṃ varārohe brahmaṇas tu śiro varam /
pañcamaṃ śṛṇu suśroṇi jātaṃ kāñcanasaprabham // 84 //
jvalat tat pañcaṃ śīrṣaṃ jātaṃ tasya mahātmanaḥ /
tad evam abravīd devi janma jānāmi te hy aham // 85 //
tataḥ krodhaparītena saṃraktanayanena ca /
vāmāṅguṣṭhanakhāgreṇa cchinnaṃ tasya śiro mayā // 86 //
主が言った。
お聞きなさい、美しき人よ。その昔、ブラフマー神には素晴しい頭があった。
［彼に］金のごとき輝きを持つ5つ目のもの（頭）が生まれた、美しき腰を持つ人よ。
かの偉大な心を持つ者（ブラフマー神）には輝く5つ目の頭が生じた。
彼は、「汝の出生を知っている」と言った。
そこで怒りに捉えられ、眼を赤くした私は、
左足の親指の爪で彼の［5つ目の］頭を切り落としてしまった。
　註）「汝の出生を知っている」：つまり、ブラフマー神は、シヴァ神で

はなく自分こそが世界の創造者であることを主張した。

brahmovāca /
tadā niraparādhasya śiraś chinnaṃ tvayā mama /
tasmāc chāpasamāyuktaḥ kapālī tvaṃ bhaviṣyasi /
brahmahatyākulo bhūtvā cara tīrthāni bhūtale // 87 //
ブラフマー神が言った。
罪なき私の頭を汝は切り落とした。
それ故、［私の］呪いを受けて、汝はカパーリン（頭蓋を持つ者）となるであろう。
ブラーフマナ殺し［の罪］に責め苛まれながら、地上の聖地をめぐれ。
註）ブラーフマナ殺し：『マヌ法典』11．5では、五大罪のひとつに数えられている。
ブラフマー神もブラーフマナと考えられている。

tato 'haṃ gatavān devi himavantaṃ śiloccayaṃ /
tatra nārāyaṇaḥ śrīmān mayā bhikṣāṃ prayācitaḥ // 88 //
そのあと、私はヒマーラヤの高き嶺に行き、女神よ、
そこで尊きナーラーヤナ（ヴィシュヌ神の別名）に懇願した。

tatas tena svakaṃ pārśvaṃ nakhāgreṇa vidāritam /
sravato mahatī dhārā tasya raktasya niḥsṛtā // 89 //
そこで彼は自分の脇腹を爪の先で切った。
彼の血の大きな流れがほとばしり出た。

prayātā sā 'tivistīrṇā yojanārdhaśataṃ tadā /
na saṃpūrṇaṃ kapālaṃ tu ghoram adbhutadarśanam // 90 //
それは50ヨージャナの長さにわたって流れたが、
恐ろしく、不思議に見える頭蓋は満たされなかった。

divyaṃ varṣasahasraṃ tu sā ca dhārā pavāhitā /
provāca bhagvān viṣṇuḥ kapālaṃ kuta īdṛśam // 91 //

神々にとっての 1000 年のあいだ、それは流れ続けた。
尊きヴィシュヌ神は、どこからそのような頭蓋が［付いたか］を尋ねた。

āścaryabhūtaṃ deveśa saṃśayo hṛdi vartate /
kutaś ca sambhavo deva sarvaṃ me brūhi pṛcchataḥ // 92 //
「不思議に思って、神々の主（シヴァ神）よ、心中に疑問が生じました。
どこから生じたのか、すべて私に話して下さい。」

devadeva uvāca /
srūyatām asya he deva kapālasya tu saṃbhavaḥ /
śataṃ varṣasahasrāṇāṃ tapas taptvā sudāruṇam // 93 //
神々の中の神（シヴァ神）が言った。
おお、神よ、お聞き下さい、頭蓋の出生を。
１万年のあいだ、苛酷な苦行を修し、

brahmā 'sṛjad vapor divyam adbhutaṃ lomaharṣaṇam /
tapasaś ca prabhāveṇa divyaṃ kāñcanasaṃnibham // 94 //
ブラフマー神は、美しく神々しい、不思議で戦慄的なものを生んだのです。
［それは］苦行の力で神々しく、金のごとき輝きを持つものでした。

jvalat tat pañcamaṃ śīrṣaṃ jātaṃ tasya mahātmanaḥ /
nikṛttaṃ tan mayā deva tad idaṃ paśya durjayam // 95 //
かの偉大な心を持つ者（ブラフマー神）には５つ目の頭が生じたのです。
私がそれをはずそうとしても、神よ、ごらん下さい、うまくいかないのです。

yatra yatra ca gacchāmi kapālaṃ tatra gacchati /
evam uktas tato devaḥ provāca puruṣottamaḥ // 96 //
私が行くところどこでも、頭蓋がついて行きます。
以上のよう［シヴァ神に］告げられたヴィシュヌ神は、［次のように］語った。

śrībhagavān uvāca /
gaccha gaccha svakaṃ sthānaṃ brahmaṇas tvaṃ priyaṃ kuru /
tasmin sthāsyati bhadraṃ te kapālaṃ tasya tejasā // 97 //
聖なる神（ヴィシュヌ神）が言った。
自分の聖地に行きなさい。汝はブラフマー神の喜ぶことをしなさい。
汝に［付いた］頭蓋は彼の威光によってそこにとどまるであろう。

tataḥ sarvāṇi tīrthāni puṇyāny āyatanāni ca /
gato 'smi pṛthulaśroṇi na kvacit pratyatiṣṭhata // 98 //
そこで徳のそなわるあらゆる聖地や神域に、
私は行き、大きな腰を持つ人よ、趣かないところはなかった。

tato 'haṃ samanuprāpto hy avimukte mahāśaye /
avasthitaḥ svake sthāne śāpaś ca vigato mama // 99 //
そして私は偉大な土地であるアヴィムクタに到着した。
自分の聖地に住んで、私への呪いは消滅した。

viṣṇuprasādāt suṣroṇi kapālaṃ tat sahasradhā /
sphuṭitaṃ bahudhā jātaṃ svapnalabdhaṃ dhanaṃ yathā // 100 //
ヴィシュヌ神の恩寵によって、美しき腰を持つ人よ、頭蓋は千々に［砕けた］。
あたかも夢で得た財が［目覚めたとき］多くに砕けるように。

brahmahatyāpahaṃ tīrthaṃ kṣetram etan mayā kṛtam /
kapālamocanaṃ devi devānāṃ prathitaṃ bhuvi // 101 //
ブラーフマナ殺し［の罪］を除去するこの聖地が私によって創られた。
カパーラモーチャナ（頭蓋の除去）は、妃よ、地上において神々に嘉みされた聖地なのだ。

註）カパーラモーチャナ：ヴァーラーナスィー北部に現在もある聖地。（Eck, p.108,109 参照）
このエピソードは、五大罪のうち最も重いブラーフマナ殺しの罪を犯した者でさえも、この聖地に住んでいれば、死んだあとに天

界に行けるということを示している。

kālo bhūtvā jagat sarvaṃ saṃharāmi sṛjāmi ca /
tatas tat patitaṃ tatra śāpaś ca vigato mama // 102 //
私は時間（カーラ）となって、全世界を破滅させ、また創造する。
それ故、そこでそれが落ち、私への呪いが消滅した。

kapālamocanaṃ tīrtham abhūd dhatyāvināśanam /
tatrastho 'smi jagat sarvaṃ sukaromi sureśvari //
deveśi sarvaguhyānāṃ sthānaṃ priyataraṃ mama // 103 //
［ブラーフマナ］殺しを消滅させるカパーラモーチャナという聖地が生まれた。
私はそこに住み、神々の神の妃よ、全世界を創る。
神妃よ、［そこは］私にとってあらゆる秘密のうちでもっとも愛しいところなのだ。

madbhaktās tatra gacchanti viṣṇubhaktās tathaiva ca /
ye bhaktā bhāskare devi lokanāthe divākare //
tatrastho yas tyajed dehaṃ mām eva praviśet tu saḥ // 104 //
私の帰依者たち、またヴィシュヌ神の帰依者たち、
［また］太陽神の帰依者たちが、女神よ、そこに行き、
そこに住み、身体を捨てるなら、その者は私に入るであろう。

devy uvāca /
atyadbhutam idaṃ deva yad uktaṃ padmayoninā /
tripurāntakarasthānaṃ guhyam etan mahādyute // 105 //
女神が言った。
神よ、蓮から生まれた者（ブラフマー神）の語ったことは、たいへん不思議です。
三都の破壊者（シヴァ神）よ、これは秘密の聖地です。

註）三都の破壊者：シヴァ神の別名。3 人の悪魔の兄弟が造った金・銀・銅の都城を、シヴァ神が破壊したという神話に由来する。（立

川、pp.87-88.）

yāny anyāni sutīrthāni kalāṃ nārhanti ṣoḍaśīm /
yatra tiṣṭhati deveśo yatra tiṣṭhati śaṃkaraḥ // 106 //
多くの聖地がありますが、それらは神々の主シャンカラ（シヴァ神）の住む［この聖地の］16 分の 1 にも値しません。

gaṅgā tīrthasahasrāṇāṃ tulyā bhavati vā na vā /
tvam eva bhaktir deveśa tvam eva gatir uttamā // 107 //
ガンガーは千の聖地に等しいか、あるいはそうではないでしょう。［しかし］神々の主よ、あなたこそがバクティ（信愛）そのものであり、あなたこそが最高の帰趨であります。

brahmādīnāṃ tu te deva gatir uktā sanātanī /
śrāvyam etad dvijātīnāṃ bhaktānām anukampayā // 108 //
ブラフマー神たちにとっても、神よ、永遠の帰趨と言われています。再生族の帰依者たちにとっても、これは感動をもって聞かれるべきです。

《テクスト》
Matsyapurāṇa. Ananda Ashrama Sanskrit Series 54, Poona, 1981.（底本）
The Matsyapurāṇam. H. H. Willson (forworded), 2 vols., Delhi: Nag Publishers, 1983.

《参考文献》
Eck, Diana L. : *Banaras: City of Light*. London: Routledge & Kegan Paul, 1983.
Singh, Rana P.B. : *Towards the Pilgrimage Archetype : The Pañcakrośī Yātrā of Banāras*. Varanasi: Indica Books, 2002.
上村勝彦訳『バガヴァッド・ギーター』岩波文庫、1992.
小西正捷・宮本久義編『インド・道の文化誌』春秋社、1995.
菅沼晃編『インド神話伝説辞典』東京堂出版、1985.
立川武蔵・石黒淳・菱田邦夫・島岩『ヒンドゥーの神々』せりか書房、1984.
宮本久義『ヒンドゥー聖地　思索の旅』山川出版社、2003.

宮本久義「『マツヤ・プラーナ』所収の「ヴァーラーナスィー・マーハートミヤ」について」、『東洋大学文学部紀要第59集インド哲学科篇 XXXI』、2006、pp.1 ～ 20.
渡瀬信之訳『マヌ法典』中公文庫、1991.

《キーワード》マツヤ・プラーナ、ヴァーラーナスィー、マーハートミヤ、ヒンドゥー教、聖地巡礼